講年度・学期	平成22年度通年	対象学科・専攻・学年	専攻科物質工学専攻1年
業形態	講義・演習	必修or選択	必修
位数	2単位	単位種類	学修単位45h
当教員	原則として特別研究の指導教官	居室（もしくは所属）	電気・物質棟3,4階・物質工学科実験棟１階・専攻科棟4F
話		E-mail	

業の達成目標

速報、原著論文、総説、アブストラクト等の区別ができ、その役割を説明できること。
専門語彙を300語以上増やすこと。
主語、述語、目的語、補語の区別、および品詞の区別がつくこと。
英和辞典を自分で引いて、発音記号を基礎して発音ができること。
現在（present）、過去（past）、未来（future）の時制（tense）を区別できること。
論理的な日本語訳ができること。

達成目標に対する達成度の具体的な評価方法

成目標1～6: スクールワーク(音読、翻訳、意味の説明) 70%
ホームワーク(予習復習のノートの内容)30%

価方法

業内容に対する理解度または運用能力が60%以上の成績で達成とする。

業内容	授業内容に対する自学自習項目	自学自習時間
導教官のもとで選定した特定分野やテーマに関る外国語文献の音読、翻訳を行い、その内容を説させる。 受講した学生が割り当てられたパラグラフ毎、あるいはセンテンス毎に音読、翻訳を行い、その内容を説明する。 学生が行った音読、翻訳の誤りを担当教員が訂正し、内容を分かりやすく講義する。 読んだ英文に関連した専門の内容について担当教員と議論する。 習ー少なくとも次回の授業で進むと考えられる範囲を3回以上音読し、分からない単語の意味とその発音記号を単語ノートに記録する。日本語訳をノートに書き、論理的な文章になるまで手直しをする。 業ー各自の分担の箇所を音読、翻訳し、意味を説明する。他者の音読、翻訳、説明にも耳を傾け、自分が予習してきた内容と比較する。教官の説明によって自分の誤りを訂正し、疑問点があれば教官に質問する。 習ー授業での内容を反復学習し、新しく学習した用語を記憶する。 授業で進んだ部分の音読を少なくとも3行う。		
	自学自習時間合計	

ーワード	英語、専門用語、音読、読解
科書	各担当教官が選択
考書	中村喜一郎、青柳忠克著「やさしい化学英語」オーム社（1989） 湊宏著「化学英語」東京化学同人（1978） 千原秀昭ら「化学英語の活用辞典」化学同人（1987） 玉虫伶太ら著「エッセンシャル化学辞典」東京化学同人（1999）
山高専の教育方針①～⑥との対応	③自然科学・英語・専門基礎科目の学力向上

術者教育プログラムの学習・教育目標

2)

BEE基準１の（１）との関係	g

リキュラム中の位置づけ

究研究のための基礎知識および、関連の専門用語についての知識を得ること。

年度までの関連科目	化学英語、ゼミナールI、応用英語I,II
学年の関連科目	ゼミナールII
年度以降の関連科目	なし

備事項

解が困難な場合は、その都度相談に応じる。予習、復習は確実に行うこと

ラバス作成年月日	平成22年2月21日